横浜市立上菅田特別支援学校　学校評価報告書　（平成28～30年度）

重点取組分野	平成28年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
確かな学力	・連絡帳、家庭訪問、面談の機会を活用して保護者との情報共有、クラス、学年における日々の振り返りやケース会での児童生徒の情報共有及び指導・支援の検討を行う。またDr.検診やPT研修等、専門職による具体的な指導について助言の共有を図るための連携などを通して、的確な実態把握を行ってチーム指導にあたる。そしてこれまで本人が身につけてきた力を生かし、今後の生活をさらに充実させるために、日々の教育活動を推進する。	・保護者との情報共有を学級担任が中心となって行い、その情報を必要な各係も共有し指導・支援の検討が行われた。またDr検診やPT研修等の助言の共有を図り日々の指導に活かしている。保護者からの評価は高く、次年度も継続したい。	A
豊かな心	・児童生徒同士の思いやりの心を育むことやリーダーシップをもって行動することができるように、運動会、文化祭に向けての取組を中心に学部、コース、グループ、学年、学級を超えた主体的な活動が展開できる設定する。 ・学部間の相互理解を進むように上菅田タイムや授業交流週間を展開する。	・運動会、文化祭など全校行事において、学部を超えた児童生徒の関わりを積極的に設け、高学年はリーダーシップを発揮することができた。大規模校ではあるが、学部間の相互理解を高めることも積極的に行えた。	A
健やかな体	・献立表・ぱくぱくだより、食育だより・給食週間などの企画を工夫し、食への興味関心を高める。 ・野菜の皮むきなどの給食調理の作業体験や野菜の栽培などの授業を通し、生産等にかかわる人々への感謝の気持ちや食物を大切にする心を育てる。 ・定期的な身体計測や歯磨き指導などの保健的行事等を通して、健康の保持増進への態度を育てる。 ・運動会の演技・競技等を通して運動することの楽しさを知り、運動に対する意欲を高める。	・食育を積極的に取り組み、生産等にかかわる人々への感謝の気持ちや食べ物を大切にする心を育て、食への興味関心を高めることができた。 ・保健的な行事を通して健康の保持増進に努めることができた。 ・運動会では児童生徒の運動特性に応じて演技・競技を工夫し、運動に対する意欲を引き出すことができた。	A
センター的機能の取組	・小中学校等の教員や児童生徒、保護者に対する支援の充実を図り,個別の支援計画や指導計画の作成に対する助言を行う。 ・小中学校等の校内研修会・区研究会に積極的に参加する。 ・小中学校等の教員や福祉施設職員に対する体験研修等の受け入れを積極的に行う。 ・地域の障害者施設等に関する情報の問い合わせや障害のある子どもの就学、進路についての相談に対応する。	・係りが中心となって、小中学校等の教員や児童生徒、保護者に対する支援を5件取り組んだ。小中学校等の教員や福祉施設職員に対する体験研修等を5件受け入れた。相談業務などは個人のプライバシーにかかわる部分が多く、職員間での情報共有が限られていたので、評価が厳しかった。次年度は情報共有について工夫したい。	B
キャリア教育	.・本校のキャリア教育を検討するため資料収集を行い、検討方針を確立する。 ・小学部6年生から高等部3年生を対象に進路の希望調査を行い、ニーズを把握し、今後の進路指導に活用する。 ・児童生徒の自立に向けた課題に応じて、各学部で遠足、修学旅行、校外学習などの事前事後学習も含め経験の機会を設ける。	・キャリア教育を検討するために担当係りが資料収集を行っているが、全体で情報を共有することができなかった。次年度以降の課題である。 ・進路指導に関しては、小学部5年生までは個別的に行われていないこともあり、保護者からの評価がやや厳しかった。 ・各学部の遠足、修学旅行、校外学習などは児童生徒の自立に向けた取り組みとなっている。	B
組織的な指導体制	・校務分掌や会議の精選や効率化を図れるように、各係、窓口が連携してスムースな組織運営を行う。 ・チーム指導体制の充実が図れるように、学部長、学年代表、クラス代表の融和的な運営のもと、担任一人ひとりが、それぞれの能力を充分に発揮する。	・各組織が効率的に運営され、学部、各係りが連携して取り組まれている。 ・学部長、学年代表、クラス代表の融和的な運営のもと、担任一人ひとりが、それぞれの能力を充分に発揮し、チーム指導の充実に努めた。保護者からの評価は高く、次年度も継続したい。	A
安全・安心な教育環境	・PDCAサイクルに基づき児童生徒の実態に応じた支援機器の活用や学習環境づくりのために、小、中学部、高等部と自立活動部、ICT情報教育部が連携して取り組む。 ・安全安心の基本的な指導・支援の徹底が図られるように、職員相互で日常的に注意喚起を促す。 ・児童生徒、保護者の防災安全への意識を高めるように、避難経路のチェック、定期的な避難訓練、家庭との連携による災害時を想定した引き渡し訓練、防災学習会を実施する。 ・横浜市の防災安全計画に基づき、災害発生時や学校事故の緊急事態発生時に適切で迅速な対応ができるように取り組む。	・児童生徒の実態に応じた支援機器の活用や学習環境づくりが積極的に取り組まれた。進歩が速い情報機器については、各係が中心となって情報取集を図った。 ・安全安心の基本的な指導・支援の徹底を職員相互で注意喚起することができた。 ・定期的な避難訓練などを通して、児童生徒、保護者の防災安全への意識を高めることができた。 ・緊急時発生時に適切で迅速な対応ができた。	A
人材育成・組織運営	・いじめ防止基本方針にのっとり、いじめ防止に向けた基本方針の推進と改善を行う。医療的ケアに関する基本研修、実地研修を行う。心肺蘇生法の研修を行う。 ・初任者や臨任、非常勤などの経験の浅い教員の授業技術や知識向上のために「授業チェックリスト票」「チャレンジシート」等を活用し、日々の自分の授業への取組を振り返り、検証することを促す。 ・メンター研修では初任者に対して毎回「振り返りシート」を提出してもらい、今回の研修の充実に努め、メンターチームへの活性化を図るように試行する。 ・授業改善のために、指導案や授業記録を共有財産として蓄積を効果的に行うこと、学年会、コース会等でPDCAサイクルを意識して話し合うこと、小中学校等と情報交換を行うことなどに取り組む。	・経験の浅い教員が増えていることや職員の入れ替わりが多いことから、指導力の向上、児童生徒に対する指導の継続性が課題である。医療的ケアに関する研修なども含め、多岐にわたって専門性の向上に努めている。 ・「授業チェックリスト票」「チャレンジシート」等を活用し、日々の自分の授業への取組を振り返り、検証すること、「振り返りシート」で研修の充実に努め、メンターチームへの活性化を図ることにも取り組んでいる。 ・研究授業も積極的に取り組まれ、授業力向上につながっている。 ・研修の機会が多く、その情報を全教職員で共有することが難しいことが課題である。	B

学校関係者評価	先生方が認め合い、支えあい、そして応援しあって先生方の笑顔を増やしてください。笑顔は伝搬します。笑顔で子どもたちの笑顔を支えてください。小学部時代の関わり、取組が中学部、高等部での育ち・成長につながるという意識で、学部を超えた校内連携を図ってください。キャリア教育、センター的機能を強化し、学校生活の充実を図ってください。子どもたちの創作活動はユニークなものであり、地域へ巡回展示できたら、よりアピールにつながる。給食の食材に先生方がはさみを入れたり、皮をむいたりする手間は大変と感じるので、ゼリーなどの別の形で提供する工夫が必要と考える。
評価結果に対する学校の見解	チームワークを大切にしながら、小学部、中学部、高等部の縦の連携と自立活動部との横の連携を基本として、全教職員、保護者、地域で児童生徒一人ひとりの成長を支える学校運営を行う。本校のキャリア教育、センター的機能を今後も充実できるように市教委や地域と連携しながら取り組む。給食も指導の一環であるので、地場産物の活用や行事食・旬の食品を取り入れて、児童生徒の食に関する興味関心を高めることをねらいとしている。「個に応じた食育」としての指導、支援に取り組み、充実に努める。
学校経営中期取組目標振り返り	「学習や体験活動を通して、一人ひとりの良さをみつけ、自分から積極的に取り組む意欲を育てます。」については、各学年が中心となってチーム指導体制のもと取り組むことができた。「異学年との関わりや当番活動を通して、人の役に立とうとする気持ちを育てます。」については、学部を超えて取り組むことができた。「様々な学習や活動を通して、思いを伝えたり、選択したり、聞き取ったりする力を育てます。」については、各学年が中心となって個に応じた指導に取り組むことができた。

重点取組分野	平成29年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
確かな学力	・連絡帳、家庭訪問、面談の機会を活用して保護者との情報共有、クラス、学年における日々の振り返りやケース会での児童生徒の情報共有及び指導・支援の検討を行う。またDr.検診やPT研修等、専門職による具体的な指導について助言の共有を図るための連携などを通して、的確な実態把握を行ってチーム指導にあたる。そしてこれまで本人が身につけてきた力を生かし、今後の生活をさらに充実させるために、日々の教育活動を推進する。	・保護者との情報共有を学級担任が中心となって行い、その情報を必要な各係も共有し指導・支援の検討が行われた。またDr検診やPT研修等の助言の共有を図り日々の指導に活かしている。保護者からの評価は高く、今後も継続的に取り組む。	A
豊かな心	・児童生徒同士の思いやりの心を育むことやリーダーシップをもって行動することができるように、運動会、文化祭に向けての取組を中心に学部、コース、グループ、学年、学級を超えた主体的な活動が展開できる設定する。 ・学部間の相互理解を進むように上菅田タイムや授業交流週間を展開する。 ・すべての活動は、道徳の指導内容を意識して取り組む。	・昨年度に引き続き、運動会、文化祭など全校行事において、学部を超えた児童生徒の関わりを積極的に設け、高学年はリーダーシップを発揮することができた。大規模校ではあるが、学部間の相互理解を高めることも積極的に行えた。 ・すべての活動を道徳の指導内容を意識して取り組むことについては、評価が厳しかった。本校では道徳科として道徳の授業を行うのではなく、教育活動全般を通じて指導している。本校における道徳教育に関する考え方や資料などを整理して、道徳教育の別葉を作成していく。	B
健やかな体	・献立表・ぱくぱくだより、食育だより・給食週間などの企画を工夫し、食への興味関心を高める。 ・野菜の皮むきなどの給食調理の作業体験や野菜の栽培などの授業を通し、生産等にかかわる人々への感謝の気持ちや食物を大切にする心を育てる。 ・定期的な身体計測や歯磨き指導などの保健的行事等を通して、健康の保持増進への態度を育てる。 ・運動会の演技・競技等を通して運動することの楽しさを知り、運動に対する意欲を高める。	・食育を積極的に取り組み、生産等にかかわる人々への感謝の気持ちや食べ物を大切にする心を育て、食への興味関心を高めることができた。 ・保健的な行事を通して健康の保持増進に努めることができた。 ・運動会では児童生徒の運動特性に応じて演技・競技を工夫し、運動に対する意欲を引き出すことができた。	A
センター的機能の取組	・小中学校等の教員や児童生徒、保護者に対する支援の充実を図り,個別の支援計画や指導計画の作成に対する助言を行う。 ・小中学校等の校内研修会・区研究会に積極的に参加する。 ・小中学校等の教員や福祉施設職員に対する体験研修等の受け入れを積極的に行う。 ・地域の障害者施設等に関する情報の問い合わせや障害のある子どもの就学、進路についての相談に対応する。 ・個人のプライバシーを尊重しつつ、教職員で情報を共有し、協力体制の向上を図る。	・昨年度の評価が厳しかったので、係が中心となって取り組んでいる記録を個人のプライバシーに配慮しつつ情報の共有に努めた。小中学校等の教員や児童生徒、保護者に対する支援と、小中学校等の教員や福祉施設職員に対する体験研修等については理解が深まり、職員が協力して取り組めた。 ・小中学校等に対する支援の実態をより具体的に伝え共有するために定期的な報告も必要と考える。研修会、研究会への参加については、より積極的に取り組んでいきたい。	B
キャリア教育	.・市教委と連携して、本校のキャリア教育を各学部が取り組んでいる教育活動を基に系統立てて、まとめていくための検討をする。 ・小学部6年生から高等部3年生を対象に進路の希望調査を行い、ニーズを把握し、今後の進路指導に活用する。 ・児童生徒の自立に向けた課題に応じて、各学部で遠足、修学旅行、校外学習などの事前事後学習も含め経験の機会を設ける。	・新学習指導要領への対応が係の業務の中心となり、キャリア教育の検討は十分ではなかった。 ・進路指導に関しては保護者からの評価が厳しかったが、卒業後の生活への不安と期待の高さの表れと考え、社会のニーズをしっかり把握して、一人ひとりの持つ力をつなげ、広げていくように取り組んでいく。 ・各学部の遠足、修学旅行、校外学習などは児童生徒の自立に向けた取り組みとなっている。	B
組織的な指導体制	・校務分掌や会議の精選や効率化を図れるように、各係、窓口が連携してスムースな組織運営を行う。 ・チーム指導体制の充実が図れるように、学部長、学年代表、クラス代表の融和的な運営のもと、担任一人ひとりが、それぞれの能力を充分に発揮する。	・各組織が効率的に運営され、学部、各係りが連携して取り組まれている。 ・保護者からの評価は昨年度よりやや厳しくなったが、今後も学部長、学年代表、クラス代表の融和的な運営のもと、担任一人ひとりが、それぞれの能力を充分に発揮し、チーム指導の充実に努めた。	A
安全・安心な教育環境	・PDCAサイクルに基づき児童生徒の実態に応じた支援機器の活用や学習環境づくりのために、小、中学部、高等部と自立活動部、ICT情報教育部が連携して取り組む。 ・安全安心の基本的な指導・支援の徹底が図られるように、職員相互で日常的に注意喚起を促す。 ・児童生徒、保護者の防災安全への意識を高めるように、避難経路のチェック、定期的な避難訓練、家庭との連携による災害時を想定した引き渡し訓練、防災学習会を実施する。 ・横浜市の防災安全計画に基づき、災害発生時や学校事故の緊急事態発生時に適切で迅速な対応ができるように取り組む。	・児童生徒の実態に応じた支援機器の活用や学習環境づくりが積極的に取り組まれた。進歩が速い情報機器については、各係が中心となって情報取集を図った。今後は情報の提供を積極的に行っていく。 ・安全安心の基本的な指導・支援の徹底を職員相互で注意喚起することができた。 ・定期的な避難訓練などを通して、児童生徒、保護者の防災安全への意識を高めることができた。 ・緊急時発生時に適切で迅速な対応を今後も取り組んでいく。	A
人材育成・組織運営	・いじめ防止基本方針にのっとり、いじめ防止に向けた基本方針の推進と改善を行う。医療的ケアに関する基本研修、実地研修を行う。心肺蘇生法の研修を行う。 ・初任者や臨任、非常勤などの経験の浅い教員の授業技術や知識向上のために「授業チェックリスト票」「チャレンジシート」等を活用し、日々の自分の授業への取組を振り返り、検証することを促す。 ・メンター研修では初任者に対して毎回「振り返りシート」を提出してもらい、今回の研修の充実に努め、メンターチームへの活性化を図るように試行する。 ・授業改善のため、特に「単元づくり」においては、「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」に基づいて学習内容を精選し、指導目標を明確にし、計画を立てることが肝要である。また、児童生徒の実態把握・教材研究の充実・指導方法の工夫・指導の中でのPDCAサイクルの活用・達成感を味わえる学習・卒業を見通した学習など様々な観点から実践し、取り組む。	・経験の浅い教員が増えていることや職員の入れ替わりが多いことから、指導力の向上、児童生徒に対する指導の継続性が課題である。医療的ケアに関する研修なども含め、多岐にわたって専門性の向上に今後も取り組んでいく。 ・「授業チェックリスト票」「チャレンジシート」等を活用し、日々の自分の授業への取り組みを振り返り、検証すること、「振り返りシート」で研修の充実に努め、メンターチームへの活性化を図ることにも取り組んでいる。これらを学年・学級の授業づくりにつなげていく。 ・研究授業も積極的に取り組まれ、教材研究が深まり、授業力向上につながっている。	B

学校関係者評価	取組に対して保護者・職員の結果も概ね良いと思う。引き続き取り組んでいただければ、“より良い学校”になると思います。教職員については、専門職員と連携をとり、日常的な学習・研修を踏まえ児童生徒に対し指導している姿勢が積極的にみられる。安全安心な学校環境づくりについては、施設の特殊性を活用して、職員が工夫をしながら取り組んでいる。地域としても特別支援学校の理解を深めるために、ボッチャ大会などを通じ連携・支援していくことが必要である。PT研修時に学級担任からの相談が増えるなど、先生方の意欲が感じられます。障害像が多様化・複雑化してきたいるので、クラス内、学部内だけでなく、縦・横の連携を密にして、各々の児童生徒に応じた身辺自立・社会参加を獲得させていってください。下校時刻の早い水曜日などに、パンなど片付けが早く終わるとメニューだと先生方の帰りの準備等、時間が有効に使えるかと思います。職員アンケート欄からC評価の数値が高いものが気になりました。特に10・11・16番について。特別支援学校の先生には地域学校含めて支援をもう少し積極的にやって欲しいと思います。あわせて進路担当だけでなく将来の姿をイメージできるようにしてください。多様な医療的ケア対応にも前向きな姿勢で研修に取り組み、子ども目線、親の安心信頼を高めていると感じる。肢体不自由校の先駆者として発信力ある姿である。今後も一人ひとり研修して教育力、指導力を高めてほしい。
評価結果に対する学校の見解	個々の教職員が専門性を高めながら、小学部、中学部、高等部の縦の連携と自立活動部との横の連携を基本として、全教職員、保護者、地域で児童生徒一人ひとりの成長を支える学校運営を行う。本校のキャリア教育、センター的機能を高め、児童生徒の家庭、地域の支援の輪を広げる取組を進める。基本的には給食の時間内で食べ終わることを想定しているので、下校時間に合わせて献立の調整は行っていない。しかしながら、献立によって配膳や喫食に時間を要するものもあるため、行事や下校時刻なども意識して献立をくめるように検討していく。
学校経営中期取組目標振り返り	「学習や体験活動を通して、一人ひとりの良さをみつけ、自分から積極的に取り組む意欲を育てます。」については、各学年が情報共有に努め、チーム指導体制のもと取り組むことができた。「異学年との関わりや当番活動を通して、人の役に立とうとする気持ちを育てます。」については、学校全体で取り組むことができた。「様々な学習や活動を通して、思いを伝えたり、選択したり、聞き取ったりする力を育てます。」については、各学年が中心となって一人ひとりの特性に応じた指導に取り組むことができた。

重点取組	平成30年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
確かな学力	・連絡帳、家庭訪問、面談の機会を活用して保護者との情報共有、クラス、学年における日々の振り返りやケース会での児童生徒の情報共有及び指導・支援の検討を行う。またDr.検診やPT研修等、専門職による具体的な指導について助言の共有を図るための連携などを通して、的確な実態把握を行ってチーム指導にあたる。そしてこれまで本人が身につけてきた力を生かし、今後の生活をさらに充実させるために、日々の教育活動を推進する。	・保護者との情報共有を学級担任が中心となって行い、その情報を必要な各係も共有し指導・支援の検討が行われた。またDr検診やPT研修等の助言の共有を図り日々の指導に活かしている。保護者からの評価は高く、今後も継続的に取り組む。	A
豊かな心	・児童生徒同士の思いやりの心を育むことやリーダーシップをもって行動することができるように、運動会、文化祭に向けての取組を中心に学部、コース、グループ、学年、学級を超えた主体的な活動が展開できる設定する。 ・学部間の相互理解を進むように上菅田タイムや授業交流週間を展開する。 ・本校における道徳教育に関する考え方や資料などを整理して、道徳教育の別葉を作成し,すべての活動は、道徳の指導内容を意識して取り組む。	・昨年度に引き続き、運動会、文化祭など全校行事において、学部を超えた児童生徒の関わりを積極的に設け、高学年はリーダーシップを発揮することができた。大規模校ではあるが、学部間の相互理解を高めることも積極的に行えた。 ・すべての活動を道徳の指導内容を意識して取り組むことについては、評価が厳しかった。本校では道徳科として道徳の授業を行うのではなく、教育活動全般を通じて指導している。現在本校の道徳教育の別葉を作成するために各学年の道徳内容を含む授業の指導案を収集している段階である。今後収集した資料を整理して別葉を完成し、職員で共通理解を図り教育活動に取り組んでいく。	B
健やかな体	・保護者や関係機関との連携を図りながら学校保健指導計画に基づいて、健康教育や食育教育の充実を図ります。 ・定期的な身体計測や体育的行事等を通して、運動や健康の保持増進への関心を高める態度を育てます。	・食育を積極的に取組、生産等にかかわる人々への感謝の気持ちや食べ物を大切にする心を育て、食への興味関心を高めることができた。保健的な行事を通して健康の保持増進に努めることができた。運動会では児童生徒の運動特性に応じて演技・競技を工夫し、運動に対する意欲を引き出すことができた。 ・健やかな体の取組については、保護者からも高い評価を得ている。	A
センター的機能の取組	・小中学校等の教員や福祉施設職員に対する体験研修等の受け入れを積極的に行う。 ・地域の障害者施設等に関する情報の問い合わせや障害のある子どもの就学、進路についての相談に対応する。 ・個人のプライバシーを尊重しつつ、教職員で定期的に情報を共有し、協力体制の向上を図る。	・昨年度の評価を参考に、取り組んでいる記録を個人のプライバシーに配慮しつつ定期的に全職員へ報告し、情報の共有に努めた。小中学校等の教員や児童生徒、保護者に対する支援と、小中学校等の教員や福祉施設職員に対する体験研修等については理解が深まり、職員が協力して取り組めた。	A
キャリア教育	・市教委と連携して、本校のキャリア教育を各学部が取り組んでいる教育活動を基に系統立てて、まとめていくための検討をする。 ・小学部6年生から高等部3年生を対象に進路の希望調査を行い、ニーズを把握し、一人ひとりの持つ力をつなげ、広げていくことができるように、今後の進路指導に活用する。 ・児童生徒の自立に向けた課題に応じて、各学部で遠足、修学旅行、校外学習などの事前事後学習も含め経験の機会を設ける。	・キャリア教育については、自分づくり（キャリア教育）系統表作成について、係が検討してきた事柄を職員会議で職員全体と共有できたが、各学部の教育活動との関連性を深めるには至らなかった。 ・進路指導に関しては、今年度進路懇談会の回数を増やすなどきめ細やかな取組が評価された。さらにニーズに応えられるように取り組んでいく。 ・各学部の遠足、修学旅行、校外学習などは児童生徒の自立に向けた取組となっている。	B
組織的な指導体制いじめへの対応	・校務分掌や会議の精選や効率化を図れるように、各係、窓口が連携してスムースな組織運営を行う。 ・チーム指導体制の充実が図れるように、学部長、学年代表、クラス代表の融和的な運営のもと、担任一人ひとりが、それぞれの能力を充分に発揮する。	・各組織が効率的に運営され、学部、各係りが連携して取り組まれている。 ・保護者からの評価は昨年度より改善した。今後も学部長、学年代表、クラス代表の融和的な運営のもと、担任一人ひとりが、それぞれの能力を充分に発揮し、チーム指導の充実に努めた。	A
安全・安心な教育環境	・PDCAサイクルに基づき児童生徒の実態に応じた支援機器の活用や学習環境づくりのために、小、中学部、高等部と自立活動部、ICT情報教育部が連携して取り組む。 ・安全安心の基本的な指導・支援の徹底が図られるように、職員相互で日常的に注意喚起を促す。 ・児童生徒、保護者の防災安全への意識を高めるように、避難経路のチェック、定期的な避難訓練、家庭との連携による災害時を想定した引き渡し訓練、防災学習会を実施する。 ・横浜市の防災安全計画に基づき、災害発生時や学校事故の緊急事態発生時に適切で迅速な対応ができるように取り組む。	・児童生徒の実態に応じた支援機器の活用や学習環境づくりが積極的に取り組まれた。進歩が速い情報機器については、各係が中心となって情報取集を図った。今後は情報の提供を積極的に行ったことで保護者からの評価が改善した。 ・安全安心の基本的な指導・支援の徹底を職員相互で注意喚起することができた。 ・定期的な避難訓練などを通して、児童生徒、保護者の防災安全への意識を高めることができた。 ・緊急時発生時に適切で迅速な対応を今後も取り組んでいく。	A
人材育成・組織運営	・いじめ防止基本方針にのっとり、いじめ防止に向けた基本方針の推進と改善を行う。医療的ケアに関する基本研修、実地研修を行う。心肺蘇生法の研修を行う。 ・初任者や臨任、非常勤などの経験の浅い教員の授業技術や知識、多岐にわたる専門性の向上のために「授業チェックリスト票」「チャレンジシート」等を活用し、日々の自分の授業への取組を振り返り、検証することを促す。 ・メンター研修では初任者に対して毎回「振り返りシート」を提出してもらい、今回の研修の充実に努め、メンターチームへの活性化を図るように試行する。 ・授業改善のため、特に「単元づくり」においては、「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」に基づいて学習内容を精選し、指導目標を明確にし、計画を立てることが肝要である。また、児童生徒の実態把握・教材研究の充実・指導方法の工夫・指導の中でのPDCAサイクルの活用・達成感を味わえる学習・卒業を見通した学習など様々な観点から実践し、取り組む。	・経験の浅い教員が増えていることや職員の入れ替わりが多いことから、指導力の向上、児童生徒に対する指導の継続性が課題として認識し、。医療的ケアに関する研修なども含め、多岐にわたって専門性の向上を積極的に取り組んだことで保護者からの評価が改善した。 ・「授業チェックリスト票」「チャレンジシート」等を活用し、日々の自分の授業への取組を振り返り、検証すること、「振り返りシート」で研修の充実に努め、メンターチームへの活性化を図ることにも取り組んでいる。これらを学年・学級の授業づくりにつなげていく。 ・研究授業も積極的に取り組まれ、教材研究が深まり、授業力向上につながっている。	A

学校関係者評価	・学校行事を通じ、児童生徒の相互理解を深めることを実施できたことは、良かったと思います。道徳規範の確立については、非常に難しい面もあるが、資料収集し共通理解を共有しながら進め、豊かな心を培うよう取り組んでいくことが必要だと思います。教職課程の中で教職員の安全に対する取り組みも今後必須になってくるので、学習環境、校舎整備などの環境づくりが必要であり、原点に返り見直していくべきであると思います。新たな時代が開けてくるが、左近山分校の開校とともに、学校内の組織体制、整備を見直し、より良い教育環境改善に取り組む必要があると思います。地域と学校の連携については、まだまだ不十分であり、ボッチャ大会、運動会、文化祭バザーなどを通じ、より多くのボランティアの参加を育成していく姿勢が望まれるところであります。教職員の研修は重要であり、専門的分野と連携し取り組んでいくことが人材育成につながると思いますので、教職員のリーダー育成に取り組み、活性化していくべきであると思います。・報告書に対する評価としては、B評価を具体的にA評価にしていく道筋を作ることが必要と考えます。特別支援学校には「センター的機能」の重層化を期待しています。福祉施設と特別支援学校との連携は進んでいるようですが…。地域の小中学校との関係性は形式もしくはなくなっているように感じます。具体的には西区では「改めて見学会」または「児童専任会への参加」を実施していますが、まだまだです。支援学校の「力」を是非ともお借りしたいところです。検討を含めよろしくお願いいたします。 ・引き続き児童生徒の長所を伸ばせるようご指導よろしくお願いいたします。 PT研修時の事後ミーティングの際、以前よりもクラスの先生方から質問や意見が出されるようになり、一方的で受身がちだった研修から変わりつつあるのを実感しています。安全への配慮が最優先されることは当たり前ですが、新しい情報を取り入れ、どのように学校運営に活かしてゆけるのか、アンテナを広げていくことを忘れずにいきたいと思います。 ・こども達のためにできることを考え、主体的に年々課題解決されている先生方の姿がとても頼もしいです。今後とも期待しています。よろしくお願いいたします。
評価結果に対する学校の見解	各学年の道徳内容を含む授業の指導案を収集し、整理して道徳教育の別葉を完成させて職員で共通理解を図り豊かな心を培う教育活動に取り組むことができるように進める。老朽化した校舎の点検を進め、市教委とも連携して学習環境の改善、校舎整備に努める。200名を超える児童生徒の居住地が市内広範囲であるので、一人ひとりの居住地域との交流や連携に積極的に取り組んでいく。地域や福祉との連携を進めるために、教職員の対話力、発信力を高め、コーディネーターを中心に全教職員で本校の専門性を活かしたセンター的機能に取り組んでいく。主体的な研修、新しい情報の収集を通して児童生徒の成長を促す指導を展開し、「生きてはたらく知」（確かな学力）を進める。
学校経営中期取組目標振り返り	「学習や体験活動を通して、一人ひとりの良さをみつけ、自分から積極的に取り組む意欲を育てます。」については、各学年が情報共有に努め、チーム指導体制のもと取り組むことができた。「異学年との関わりや当番活動を通して、人の役に立とうとする気持ちを育てます。」については、学校全体で取り組むことができた。「様々な学習や活動を通して、思いを伝えたり、選択したり、聞き取ったりする力を育てます。」については、各学年が中心となって一人ひとりの特性に応じた指導に取り組むことができた。